

令和6年度病虫害発生予報第12号（4月予報）概要表

令和7年3月26日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容		
	発生時期	発生量	
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）の移植期防除対策</u>			
（1）スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）			
<u>2 麦類</u>			
（1）赤かび病の防除対策			
（2）さび病（コムギ赤さび病、オオムギ小さび病）			並
（3）うどんこ病			並
（4）アブラムシ類			並
<u>3 なし</u>	やや遅	並	
（1）黒星病			
<u>4 トマト（冬春栽培）</u>			
（1）灰色かび病			並
（2）葉かび病			並
（3）黄化葉巻病			多
（4）コナジラミ類			並
<u>5 きゅうり（冬春栽培）</u>			
（1）べと病			並
（2）うどんこ病			並
（3）灰色かび病			並
（4）アザミウマ類			並
（5）コナジラミ類			並

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>6 いちご (本ぼ)</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		並
(4) アブラムシ類		並
(5) ハダニ類		やや少
(6) コナジラミ類		並
<u>7 茶</u>		
(1) チャノホソガ (第1世代幼虫)		並
(2) カンザワハダニ		やや少
(3) ツマグロアオカスミカメの防除対策		

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和6年度病虫害発生予報第12号（4月予報）

令和7年3月26日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5月中旬までの移植）の移植期防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植前の入水時から移植後3週間まで、取水口・排水口に9mm目合のネットや金網を設置する。 ・ 常発地域では、移植時に薬剤の全面散布を行う。特に貝が集まりやすい深水部には重点的に散布する。 ・ 常発地域では、移植後の3週間を目安として浅水管理(水深4cm以下)を行う。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 表

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
赤かび病			<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・現在の生育状況から、麦類の出穂期は平年並と考えられる。 ・防除適期の目安は、小麦では出穂の7～10日後、六条大麦では穂揃期、二条大麦(ビール麦)では穂揃期の10日後である。ほ場をよく観察し、適期に薬剤による防除を実施する。
さび病 (コムギ 赤さび病 オオムギ 小さび病)	並	<ul style="list-style-type: none"> ○3月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並(±) 	<ul style="list-style-type: none"> ・窒素質肥料の過多などにより、過繁茂となっている麦は発生しやすいため、ほ場をよく観察し、初期防除に努める。
うどんこ病	並	<ul style="list-style-type: none"> ○3月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：無(－) □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並(±) 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、止葉を含む上位2葉に病斑が進展する恐れがある場合は、薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	並	<ul style="list-style-type: none"> ○3月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並(±) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テントウムシ類等の捕食による密度低減効果を高めるため、天敵の温存を心がける。 ・出穂すると穂に移動して加害するため、多発した場合は出穂前後に薬剤による防除を実施する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

3 なし

病害虫名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	発生時期 やや遅 発生量 並	○3月中旬の発生量：無 ■幸水開花予測：4日遅い（4月7日）過去10年平均4月3日（3月10日時点）（－） □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・開花から2週間後までの降雨は発生を助長するため、重点的に防除する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。

4 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○3月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
葉かび病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
黄化葉巻病	多	○3月中旬の発生量：多 □3月中旬のコナジラミ類の発生量：並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	並	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は平年並か高い（±）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・本虫は黄化葉巻病を伝搬するため、防除対策を実施する。
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・マルハナバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 きゅうり（冬春栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	<ul style="list-style-type: none"> 多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照1）を参考に防除対策を実施する。 草勢低下は発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
うどんこ病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	<ul style="list-style-type: none"> やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。 草勢低下は発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
灰色かび病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	<ul style="list-style-type: none"> 多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い（±）	<ul style="list-style-type: none"> 施設周辺の除草を徹底する。 本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照1）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	並	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は平年並か高い（±）	<ul style="list-style-type: none"> 施設周辺の除草を徹底する。 本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照1）を参考に防除対策を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- 並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- 多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

6 いちご（本ぼ）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○3月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並（±）	・草勢の衰えや茎葉の繁茂により助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	並	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は平年並か高い（±）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・粘着板等によるモニタリングを行い、早期発見・早期防除に努める。
アブラムシ類	並	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は平年並か高い（±）	・施設周辺の除草を徹底する。
ハダニ類	やや少	○3月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は平年並か高い（±）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・気温上昇に伴い急増しやすいため、注意する。
コナジラミ類	並	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は平年並か高い（±）	・施設周辺の除草を徹底する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。 			

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

7 茶

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノホソガ (第1世代幼虫)	並	○3月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並(±)	・三角葉巻が目立つ前に早めに摘採するか、薬剤による防除を実施する。 ・昨年秋に発生が多かった園では、特に注意し、観察する。
カンザワハダニ	やや少	○3月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：無(一) □気象予報：気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並(±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・一番茶萌芽期が防除時期となるため、発生状況に応じて防除の要否を判断する。 ・薬剤防除の際は、抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。
ツマグロアオカスミカメ			・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・一番茶芽の生育初期に、新芽に赤褐色の細かい斑点が生じる被害芽が多く確認されたら、速やかに薬剤による防除を実施する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム \(農林水産省\)](https://pesticide.maff.go.jp/) から検索できます。
農薬登録情報提供システム (農林水産省) <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和7年3月20日発表)

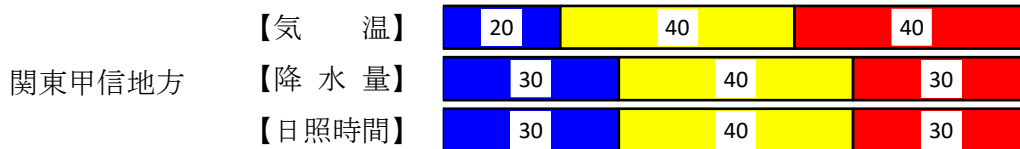
出典：気象庁ホームページ

https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html

<予報のポイント>

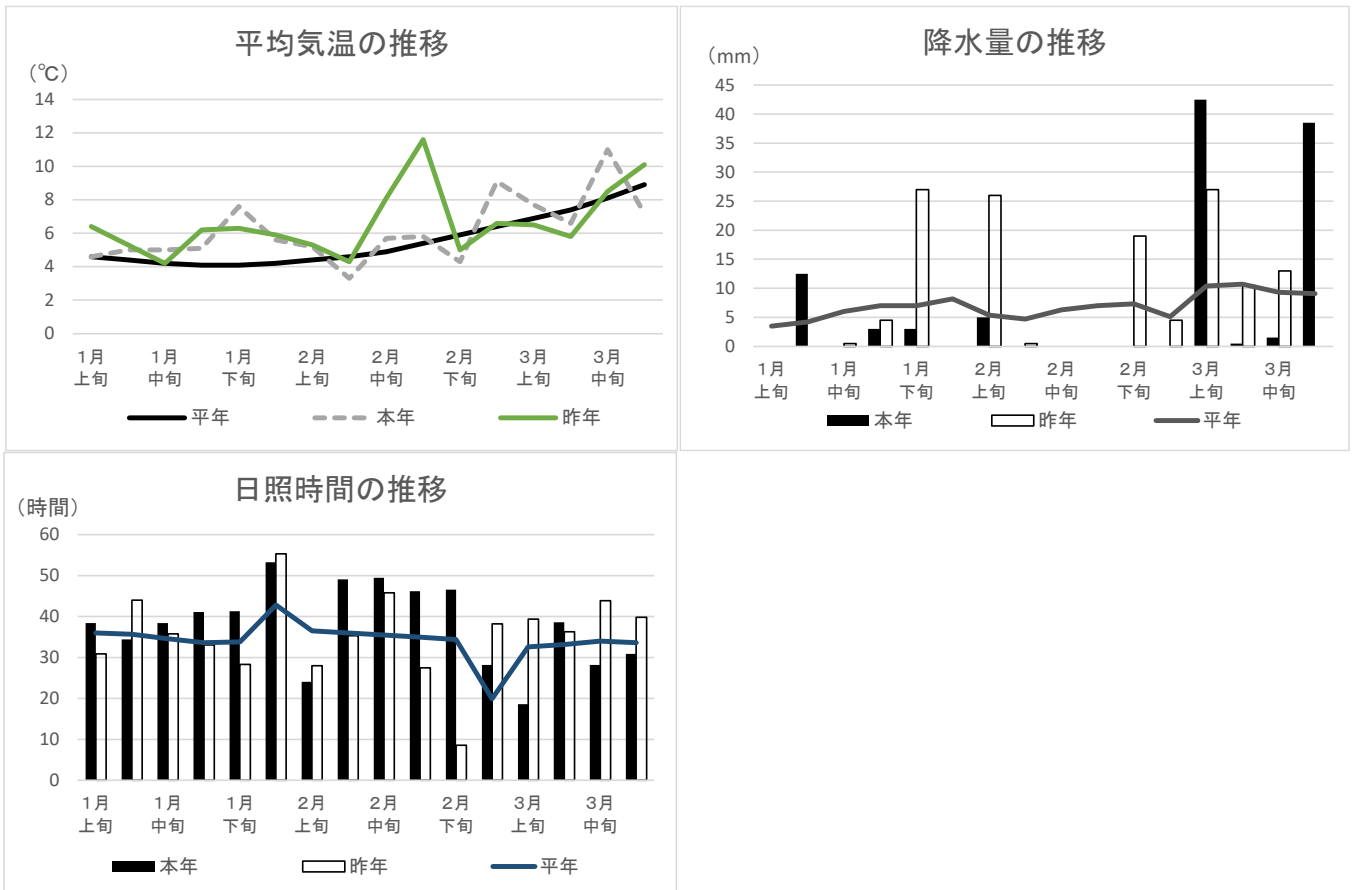
・暖かい空気が流れ込みやすい時期があるため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
 http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/